

# 道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深める児童の育成

ー小学校低学年におけるワークシートとICTを活用した授業の工夫ー

沼田市立利南東小学校 林さとみ

## I テーマ設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編によると、学習指導の多様な展開として四つの学習指導を挙げており、その中の一つである「多様な教材を生かした指導」においては、教材を学習指導で効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが求められている。本校の第1学年の児童は、発達の段階において自分中心に物事を考える傾向にあり、相手の立場に立って気持ちを考えることに課題が見られる。また、自分の考えを文章で書き表すことに支援が必要である。そこで、道徳科の授業で、道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深めることができるよう、小学校低学年におけるワークシートとICTを活用した授業の工夫を行う。その中で、登場人物の心情を考慮することや、振り返りで自分の考えを表現することができるよう活動を工夫することで、目指す児童を育成することができると考え、本テーマを設定した。

## II 実践例

### 1 主題名 しんせつはいいきもち 内容項目B－（7）親切、思いやり（第1学年・2学期）

教材名 「はしのうえのおおかみ」（出典：「いきるちから1」日本文教出版）

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領第1学年及び第2学年内容項目B－（7）親切、思いやり「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」に基づくものである。親切や思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることであると考え。なぜなら、自分のことばかり考えたり、自分の思いだけ主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできず、互いが相手に対して親切や思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠であるからである。小学校1年生の時期の児童は、家庭や学校での大人からの言葉掛けなどから、人に優しくすること、親切にすることは、よいことであるということは知っている。しかし、親切にすることの喜びや、そのよさを十分理解しているとはいえない。そのため、「褒められるから」「大人が言うから」という理由だけで、親切にするのではなく、親切にすることで得られるよさについてしっかりと考え、理解させ、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てることが大切である。

#### (2) 児童の実態について

本校の第1学年の児童は、人に優しくすること、親切にすることは、よいことであると知っていて、友達に対して優しく接している児童が多い。一方で、親切にすることの喜びや、そのよさを十分に理解している児童は少ない。そのため、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるよう、身近にいる人との触れ合いの中で、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにしていくことが必要である。これらのことから、本授業を通して、「意地悪をしたときよりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがいい」ということに気付かせたい。そして、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てたい。

#### (3) 教材について

本教材は、意地悪をしたときよりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがいいことを理解させたり身近にいる人に親切にしようとする心情を育てたりすることができる教材である。主人公のおおかみが、くまのまねをしてうさぎに親切にする場面での気持ちを考えさせることで、親切への憧れやできるようになりたいという思い、そして、親切にしたときの温かさに気付くことができる適切な教材となっている。

### 3 ねらい くまに親切にされたおおかみの変容を通して、意地悪をしたときよりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがいいことを理解し、身近にいる人に親切にしようとする道徳的心情を育てる。

4 展開

<p>主な学習活動 主な発問 (◎中心発問◇補助発問) 予想される児童の反応 [S]</p>	<p>◎研究上の手立て 【★ICT活用に関する事項】 ○指導上の留意点</p>
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、動画を視聴して問題意識をもつ。 (導入5分) S:出てくる人は、みんなだれかに優しくしているね。 S:女の人は男の人が落とした物を拾ってあげると思う。 S:親切にしたりされたりして、みんな嬉しそうだね。 S:今日は、「親切」についてみんなで考えるのかな。</p> <p>＜めあて＞しんせつにすると、どんないいことがあるのだろう。</p>	<p>○親切について問題意識がもてるように、親切に関する動画を視聴させる。 ※動画「Life Vest Inside kindness Boomerang」 ○児童の問題意識を基に、学習のめあてを設定することができるように、本時のねらいに迫るような児童の反応を取り上げる。</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。 (5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち交流する。→タブレットで配付されたデジタルのワークシートに、自分の考えを記入して提出箱に提出をする。 【★入力・提出】(展開①20分)</p> <p>◎「えへん、へん。」と言ったとき、おおかみはどんな顔をしていたのでしょうか。また、どんな気持ちでしたか。</p> <p>S:にこにこ顔。うさぎさん、喜んでくれたかな。 S:かなしい顔。意地悪してごめんね、もうしないよ。 S:ふしぎな顔。どうして前より気持ちがいいのかな。</p> <p>◇おおかみが、前よりいい気持ちになったのは、どうしてでしょうか。</p> <p>S:くまさんみたいに、いいことができたから。 S:意地悪じゃなくて、優しくできたから。 S:うさぎさんに親切にしたら喜んでくれて嬉しかったから。</p>	<p>○登場人物の心情や場面に着目できるように、大型テレビでスライド資料(場面絵)を見ながら範読を聞くよう促す。 【★提示】</p> <p>◎おおかみの心情を考えることができるように、顔のシルエットや吹き出しのある場面絵(おおかみがうさぎに親切にしているところ)を使ったデジタルのワークシートに、自分の考えを記入するよう促す。 ◎顔のシルエットには表情を手書き機能で描きこみ、吹き出しには気持ちをキーボードで文字入力するよう促す。 ◎おおかみの心情を様々な角度から捉えることができるように、提出箱に提出された児童のワークシートをもとに、全体で交流して友達の考えに触れることができるようにする。 【★一覧表示・共有】 ○自分や友達の考えを振り返ることができるように、板書で児童の考えを分類・整理する。</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。 (展開②5分) S:自分も友達も、みんながいい気持ちになるね。 S:意地悪をするよりも親切にするほうが、ずっといい気持ちになるね。 S:親切ってどんどんつながっていくね。</p>	<p>○一人一人の児童が、親切のよさと向き合うことができるように、児童を意図的に指名し、本時のめあてに迫る考えをクラスで共有する。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 (終末10分)</p> <p>＜振り返り＞ S:きょうは、いじわるをするよりもしんせつにするほうが、ずっといいきもちになることをはっけんしたよ。 S:これからは、ともだちにやさしくして、しんせつがどんどんつながっていくといいな。 S:いままで、ブランコをかせなかつたけど、これからは、みんなにブランコをかせてあげたいな。</p>	<p>◎自分の考えを表現できるように、ワークシートを活用して①と②の振り返りをするよう促す。 ①二つの視点から自己評価をさせる。 ・話し合いをして発見したことがあった。 (多面的・多角的な見方) ・これから自分が大切にしたいことが分かった。 (自分自身との関わり) ②自己評価に合わせて、三つのキーワードから選択し、自分の考えを文章で表現させる。 ・きょうは、○○ということをはっけんしたよ。 ・いままで、わたしは、○○だったな。 ・これからは、○○していきたいな。</p>

#### ◆評価の視点（発言・ワークシートの記述）

- ・「親切にすることの喜びやよさについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・「親切にすることの喜びやよさについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。

### 5 授業記録

中心発問では、「うさぎに親切にしたとき、おおかみはどんな顔、どんな気持ちでしたか」と問い、デジタルのワークシートに自分の考えを書いて提出するよう指示した。ワークシートを提出した後、タブレットから友達の考えを共有する際、「おおかみの顔の表情や吹き出しの気持ちを見て、気になる友達の考えを見付ける」という視点を与え、児童それぞれが時間を有効に使えるようにした。全体の交流では、自分の考えを伝えたり、気になる友達の考えを話し合ったりする時間を設定した。名前が挙がった児童の考えについて話し合ったことで、友達の考えに触れ、おおかみの心情を様々な角度から捉えることができた。補助発問では、「おおかみが、前よりいい気持ちになったのはどうしてか」と問い、うさぎに意地悪したときと親切にしたときのおおかみの心情を比較し、なぜ後者の方がいい気持ちなのかを考えさせた。児童からは、「おおかみさんが、うさぎさんに優しくして心が温まったから」という意見が出された。さらに、めあてをもう一度考える場面では、「くまさんが優しくしたおかげで、おおかみさんが優しくなった」という意見が出され、本時のめあてに迫ることができた。全体の交流のまとめとして、「親切にすると意地悪な心がきれいな優しい心になること」「意地悪するよりも親切にした方がずっといい気持ちになること」「親切は心と心をつないでくれること」をクラスで共有したことで、一人一人の児童が親切のよさと向き合うことができた。

振り返りでは、ワークシートにある自己評価の欄の「発見したことがあったよ」「これから大切にしたいことが分かったよ」の両方に丸を付けた児童が27名中24名いたことから、親切をテーマにした本時の授業が、児童にとって充実した時間であったことが分かった。振り返りで自分の考えを文章で表現する活動では、自己評価の「発見したことがあったよ」のみに丸を付けた児童については、一つのキーワードを活用して、「親切にすると心が温まることを発見した」という内容を記述することができた。二つの項目に丸を付けた児童については、二つのキーワードを活用して実際の生活に結び付けて、「今まで私は、転んだ子を無視して遊んでいたけど、これからは転んだ子を助けて保健室に連れて行ってあげよう」という内容を記述することができた。

### Ⅲ まとめ

道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深める児童の育成を目指し、小学校低学年におけるワークシートとICTを活用した道徳科の授業の工夫を行った。

中心発問の場面では、おおかみの顔をシルエットにして表情を考えさせたことで、小学校1年生の児童であっても、表情が想像しやすくなり、吹き出しの気持ちを考えることにつながった。また、ICTを活用したことで、友達の考えに触れ、自分と似た考えや異なる考えに着目することができ、おおかみの心情を様々な角度から捉え、親切のよさと向き合うことができた。

振り返りの場面では、自己評価で二つの視点を示したことで、本時の授業をもう一度振り返りながら、親切のよさについて新たに発見したことや、これから自分が大切にしたいことについて、主体的に自己評価に取り組むことができた。さらに、三つのキーワードを示したことで、全員の児童が、自己評価と関連付けながら、自分の考えを文章で表現することができた。文章で書き表すことに支援が必要な児童であっても、一つのキーワードを活用して、振り返りを行うことができた。この活動を積み重ねていくことで、どの児童も、二つから三つのキーワードを活用して振り返りを行い、道徳的価値についての自分の考えをより深めることができると考える。

今後の展望として、低学年だけでなく他学年においても、道徳的価値についての自分の考えを深めることができるよう、ワークシートを児童の実態に合わせて工夫したり、ICT活用の仕方について、教師の選択から、次第に、児童の選択へと移行していけるようにしたりする必要があると考える。